

令和4年度
市政方針



若小牧市長
若倉 博文

令和4年度 (2022年度) 市政方針 目次

1 はじめに		(2)明日を拓く力みなぎる産業のまち	
(1)市政への想い	3	農水産業の振興	18
(2)時代認識	5	林業の振興	18
(3)まちづくりの姿勢	6	工業の振興	19
(4)公約について	7	商業の振興	19
		観光の振興	20
2 基本政策		新千歳空港の拠点形成強化と 周辺環境対策の推進	20
(1)市民によるまちづくりの推進	8	苫東開発の推進	21
(2)健全な行財政運営の推進	9	(3)学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち	
(3)ゼロカーボンシティへの挑戦	9	教育行政	21
		北洋大学	21
3 予算編成	11	市民ホールの整備	21
		国際・国内交流の推進	22
4 重点施策		(4)自然と環境にやさしいまち	
I 持続可能なまちに向けた都市機能の強化		自然環境の保全	22
行政組織の活性化	12	公害の防止と地球環境の保全	22
防災体制の充実	12	生活衛生の充実	23
まちなかの活性化	13	ごみの減量とリサイクルの推進	23
II 地域経済をけん引する力強い産業の展開		(5)安全・安心で快適に暮らすまち	
企業立地の促進、港湾整備と ポートセールスの推進	13	居住環境の充実	23
雇用・労働環境の整備・充実	14	上下水道の整備・健全な維持管理	24
III 地域で活躍する“ひと”を育むまちの形成		道路の整備	24
地域福祉の推進	15	公共交通の充実	24
子育て支援の充実	15	消防・救急体制の充実	25
市民スポーツの推進	16	交通安全の推進	25
		防犯対策の推進	25
5 主要施策		消費生活の安定	25
(1)共に支え合い健やかに暮らすまち		6 むすび	27
保健予防対策の充実	17		
医療体制の整備・充実	17		
高齢者福祉の推進	17		
障がい者福祉の推進	18		

1 はじめに

(1) 市政への思い

私が4期目の市長に就任してから、約3年半が経過し、7月には任期満了を迎えます。

この間を振り返りますと、就任から2か月後の平成30年9月には、北海道胆振東部地震が発生し、本市の災害対応はもとより、被害の大きかった近隣自治体に対し、東胆振定住自立圏の中心市として支援を実施しました。一昨年から続いている新型コロナウイルス感染症においては、刻一刻と状況が変化する中で、適時適切な対策を講じています。

いずれも過去に例のない事態であることから、市民の皆様の安全と安心を最優先に心掛け市政の舵取りを行ってまいりました。

私の市政運営にとって一丁目一番地である財政健全化に向けては、「財政基盤安定化計画 Second Stage」を策定し、財政の健全性を確保するとともに、持続可能な財政運営を推進してまいりました。

また、「苫小牧市行政創革プラン」を策定し、“すでにあるもの”を改善するだけでなく、“まだないもの”を創り上げることを意識した取り組みに挑戦しているほか、企業版ふるさと納税の受入れなど、新たな財源確保にも取り組んでいます。

福祉の分野では、4回目となるふくし大作戦や、あいサポート運動を

通して、ともに支え合う“ふくしのこころ”をテーマにまちづくりを進めてまいりました。

男女平等参画の分野では、企業や市民からなる市民会議を組織したほか、“自分らしさ応援E X P O”を開催するなど、全ての人の個性が尊重される環境整備に向けて様々な取り組みを推進してまいりました。

環境の分野では、0 5 3（ゼロごみ）大作戦を展開し、周知・啓発を通じて、市民のごみ減量、リサイクルの意識醸成を図ってまいりました。

子育ての分野では、室蘭児童相談所苫小牧分室及び北海道苫小牧支援学校が市内に開設されたことに加え、「苫小牧市子どもを虐待から守る条例」を制定し、将来を担う子ども達を支援する環境が整いました。

また、苫小牧中央インターチェンジが開通したほか、図柄入り苫小牧ナンバープレートが交付開始となるなど、市民の長年の悲願が成就した期間でもありました。

一方、旧サンプラザビルの対応では、市民の皆様には長い間ご心配をおかけしており、大変申し訳なく思っています。一日も早い解決に向けて、今後も粘り強く取り組んでまいります。

また、市長就任当初から、信頼される市役所づくりを目指してまいりましたが、今もなお、職員の資質が問われる事態が発生しており、今一度、綱紀粛正の徹底と信頼の回復に努めてまいります。

(2) 時代認識

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、苫小牧保健所や（一社）苫小牧市医師会などの関係機関の協力により、2回目までのワクチン接種を終え、現在は3回目の接種を開始しています。しかしながら、次々と変異株が出現し、未だ予断を許さない状況が続いており、引き続き“感染拡大防止”、“地域経済対策”、“健やかな日常”を重点軸に、スピード感を持って、対策を講じてまいります。

また、コロナ禍によって我々の生活様式が大きく変化する中で、多様な働き方が浸透してきています。本市としては、各地からのアクセスの良好な立地環境をいかし、ワーケーション^{※1}の受入れに取り組み、関係人口を創出するとともに、企業間の接点を設けることで、新たなビジネスチャンスを広げ、地域産業の振興を図ってまいります。

世界各国では、2030年のSDGs達成に向けて取り組みが進められており、政府においても、持続可能な社会を実現するために、カーボンニュートラル^{※2}などの環境問題に対する取り組みを推進しています。本市においても、市民・企業市民と協力し、積極的にゼロカーボンの取り組みを進めてまいります。

また、政府はデジタル田園都市国家構想を掲げ、地域が抱える人口減少、高齢化、産業空洞化などの課題に対し、デジタル技術の活用により

※1 ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた働き方のこと

※2 二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、実質ゼロとすること（ゼロカーボン、脱炭素）

解決することを推進しています。本市においても、マイナンバーカードのさらなる普及やスマートシティ^{※3}の推進など、デジタル化を進め、市民サービスの向上や行政手続の効率化に取り組んでまいります。

(3) まちづくりの姿勢

全国的に人口減少、少子高齢化が加速する中で、本市においても、平成25年にピークを迎えた人口が、昨年17万人を割り込みました。

人口減少対策は、産業拠点都市である本市にとって最大の課題であり、「苫小牧市総合戦略」に基づき、中長期的な視点で取り組みを展開するとともに、コンパクトなまちづくりに向けた「苫小牧市立地適正化計画」を策定し、持続可能な都市を目指してまいります。

また、人口減少により、あらゆる職種において人手不足、人手確保が課題となることから、雇用情勢をいち早く把握し、実効性のある施策を展開するとともに、地域の特性をいかした産業の誘致などを通じて、良質な雇用の創出に努めてまいります。

4月には、新たに国際リゾート戦略室とまちなか再生主幹を統合した未来創造戦略室を設置します。“ものづくり産業のさらなる展開”、“臨海ゾーンにおけるロジスティクスの展開”、“臨空ゾーンにおける国際リゾートの展開”という3つの成長戦略の具現化に向けて、「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づく取り組みを加速してまいります。

※3 デジタル技術の活用により諸課題を解決し、新たな価値を創出し続ける持続可能な都市や地域のこと

また、旧サンプラザビルの対応を含め、苫小牧駅周辺再整備に向けたビジョンの策定に取り組んでまいります。

(4) 公約について

私は、4期目の市政運営に当たり、5つの基本政策と25項目50施策の公約を掲げており、昨年12月末時点では87%程度の進捗と判断しています。

公約の公表段階では想定していなかった新型コロナウイルス感染症により、集客を伴う事業など、影響が出ている施策もありますが、引き続き任期の最後まで全力で取り組んでまいります。

2 基本政策

(1) 市民によるまちづくりの推進

地域活動の促進につきましては、まちづくりの重要なパートナーである町内会と情報共有を図りながら、地域課題の解決に取り組むとともに、コロナ禍における町内会の新しい活動スタイルの提案などを行い、本来の活気ある町内会活動に向けて支援してまいります。

市民自治の推進につきましては、「苫小牧市自治基本条例」の理念に基づき、改めて市民参加と協働によるまちづくりに対する機運の醸成を図るとともに、職員一人ひとりの広聴マインドの向上に努め、市民の声に組織として対応してまいります。

男女平等参画の推進につきましては、「苫小牧市男女平等参画基本計画」の中間見直しを行い、より時代に即した施策を展開してまいります。また、DV被害者やコロナ禍により困難を抱えている女性への支援を強化し、男女平等参画社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

平和の推進につきましては、「苫小牧市非核平和都市条例」の制定から20年を迎えることとなり、平和への想いを形にしたいと願う活動が広がりを見せるなど、条例の理念が浸透してきていることがうかがえます。この節目の年に、市民の皆様の想いに寄り添いながら、改めて核兵器の恐ろしさ、平和の尊さに触れていただく事業を展開してまいります。

(2) 健全な行財政運営の推進

行政改革につきましては、令和2年度にスタートした「苫小牧市行政創革プラン」が計画期間の中間年を迎えます。発想の転換により、社会環境の変化に対応した取り組みを洗い出し、プラン全体の見直しを行います。

また、10月には、既に民間に委託している窓口サービス課の業務に、保険年金課及び総合案内の業務を加えて包括的に委託することにより、総合窓口フロア全体の総合運用を開始し、市民サービスのさらなる進化を図ってまいります。

財政運営につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が見通せない状況ではありますが、市民生活や地域経済に配慮しながら、本市の財政秩序を踏まえた健全な財政運営に努めてまいります。

(3) ゼロカーボンシティへの挑戦

政府が2050年に温室効果ガス排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラル実現の方針を示したことを踏まえ、本市は、昨年8月にゼロカーボンシティへ挑戦することを宣言しました。

本市においては、約10年前からCCS大規模実証試験に着手し、いち早く脱炭素に取り組んでまいりましたが、今後のゼロカーボンの取り組みは、産業、暮らし、交通、公共などの幅広い分野で、地域の強みをいかしながら、まちの活性化につなげていくことが重要になります。

特に、2030年までの取り組みが鍵を握りますので、企業及び市民一人ひとりと認識を共有し、ゼロカーボンシティを目指してまいります。

3 予算編成

令和4年度の当初予算は、市長の改選期ではありますが、新型コロナウイルス感染症の状況や社会経済情勢、国の政策動向を踏まえ、市民生活に支障が生じないことに十分配慮して予算編成を行い、政策予算の一般財源は、45億2千万円、早期発注事業として、4億3千万円を計上しました。

以上の結果、当初予算は、

一般会計 79,834,000 千円

特別会計 33,340,374 千円

企業会計 22,278,396 千円

合計 135,452,770 千円となりました。

各会計の予算案は、議案第13号から第20号であり、関連する議案は、第25号及び29号であります。

※各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会において説明します。

4 重点施策

I 持続可能なまちに向けた都市機能の強化

<行政組織の活性化>

行政組織の活性化につきましては、新たな行政課題に対し、迅速かつ柔軟に対応できるよう機能的な組織体制を構築してまいります。

4月には、未来創造戦略室を設置し、魅力あるまちづくりをより効果的に推進するほか、上下水道部全体の組織機構を見直すことで、人口減少社会における老朽施設更新の在り方や、技術の継承など諸課題に対応してまいります。

また、人材育成においては、自分軸を持ち、主体的に行動し、自らの能力や可能性を最大限発揮できる自立型人材の育成をテーマとし、研修や人事マネジメントについて新たな切り口で取り組んでまいります。

<防災体制の充実>

防災体制の充実につきましては、防災行政無線の活用により行政及び地域からの放送内容を充実させるとともに、屋外スピーカーの音質改善や戸別受信機の普及促進を図り、より確実な情報伝達に努めてまいります。

また、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震への対策として、今後北海道から公表される被害想定及び減災目標を津波ハザードマップに反映

させるなど、避難体制のさらなる強化を図り、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。

<まちなかの活性化>

まちなかの活性化につきましては、CAP（苫小牧市まちなか再生総合プロジェクト）プログラムパート4の最終年として、まちづくりの関係者や市民で構成するT.O.P^{※4}による事業展開など、日常的なにぎわいを創出し、まちなかの新たな誇りや愛着を醸成してまいります。

II 地域経済をけん引する力強い産業の展開

<企業立地の促進、港湾整備とポートセールスの推進>

企業立地の促進につきましては、苫小牧中央インターチェンジ開通による苫小牧港を拠点とした物流の効率化に加え、自然災害の少なさや冷涼で安定した気候など本市の優位性をPRし、ゼロカーボン技術の研究開発や実証プロジェクトを誘致してまいります。また、カーボンリサイクルや再生可能エネルギーの導入、水素の利活用などの取り組みを地元企業と連携して進めることで、産業誘致や地域経済の活性化に努めてまいります。

港湾整備につきましては、東港区周文ふ頭の連続バース化に向けた取り組みを進め、複合一貫輸送やバルク貨物などの輸送効率化、大規模自然災害などに備えた耐震・防災機能を強化してまいります。

※4 Tomakomai Open Project の略で、まちなかに対する誇りと愛着を育て、にぎわいの創出を目的とした会議

国際コンテナターミナルにおいては、4基目のガントリークレーンが供用開始となり、さらなる荷役機能の向上と安定稼働に努めるほか、利用者へのサービス向上やターミナル運営の効率化を図ってまいります。

また、温度管理型冷凍冷蔵庫を核に、食と物流が一体となった新たな物流拠点フードロジスティクスの形成に向けた取り組みを推進し、農水産物の高付加価値化を図るなど、道内産品の輸出拡大につなげてまいります。

さらに、産業拠点である港湾地域における、温室効果ガス削減の目標や取り組みなどをまとめた「苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画」の策定を進めてまいります。

ポートセールスの推進につきましては、関係機関と連携して苫小牧港の優位性をPRし、知名度向上と港勢拡大につなげてまいります。

<雇用・労働環境の整備・充実>

雇用・労働環境の整備・充実につきましては、合同就職説明会を開催するほか、企業の魅力発信や採用活動のオンライン化など市内企業の採用力向上を支援し、人材確保に努めてまいります。

また、働きやすい職場づくりやICT化など、企業が抱える様々な課題に対して、専門家を通じて個別にサポートしてまいります。

さらに、就業支援事業として、職人を目指す方や復職を希望する女性、就職氷河期世代の方を対象とした研修や職場体験などを行い、雇用の

確保に取り組んでまいります。

公共工事の発注においては、余裕期間制度の実施や週休2日制工事の試行のほか、早期発注による施工時期の平準化を継続し、受注者の働き方改革や職場環境の改善、人手不足への対応に努めてまいります。

Ⅲ 地域で活躍する“ひと”を育むまちの形成

<地域福祉の推進>

地域福祉の推進につきましては、ふくし総合相談窓口機能を充実させ、誰もが住み慣れた環境で、心豊かに安心して暮らしていける地域づくりに努めてまいります。

また、12月に供用開始予定の東開文化交流サロンを共生型地域福祉拠点と位置づけ、あらゆる世代の方が交流し、活躍の機会と役割を生み出せるよう、地域活動を促進してまいります。

<子育て支援の充実>

子育て支援の充実につきましては、認定こども園及び小規模保育施設の整備により、保育需要が増加している3歳未満児の受け皿をさらに拡充し、待機児童の解消を図ってまいります。

児童虐待の防止に向けては、「苫小牧市子どもを虐待から守る条例」の基本理念に基づき、こども相談センターにおいて、室蘭児童相談所苫小牧分室と緊密な連携を図り、迅速かつ適切な支援を行うことで、虐待

のないまちづくりを推進してまいります。

また、特定不妊治療への対応においては、国が示す保険適用範囲に応じて、安心して不妊治療を受けることができる体制を整備するとともに、仕事と治療を両立できる環境づくりに努めてまいります。

青少年の健全育成においては、東日本大震災の被災地を訪れることも研修事業を実施し、震災復興までの道のりを学ぶとともに、協調性や社会性を養う取り組みを推進してまいります。

<市民スポーツの推進>

市民スポーツの推進につきましては、老朽化したスポーツ施設の整備を計画的に進めるほか、パラスポーツの普及やスポーツ合宿の誘致に取り組み、市民の健康づくりと地域の活性化につなげてまいります。

また、氷都とまこまいにゆかりのある選手が多数出場する日本学生氷上競技選手権大会や、全国中学校卓球大会が開催されますので、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、全国各地から訪れる選手や関係者の皆様が、安全で安心して参加できる大会運営に努めてまいります。

さらに、令和5年度に開催予定の全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス及びテニス競技）に向け、実行委員会を設立し、本格的な準備を進めてまいります。

5 主要施策

(1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

保健予防対策の充実につきましては、「苫小牧市健康増進計画」に基づき、がん検診を推進し、受診率向上を目指すとともに、アフターコロナを見据えた“こころの健康づくり”に取り組んでまいります。

医療体制の整備・充実につきましては、市立病院において新型コロナウイルス感染症の対応に努めるとともに、新たな経営改革プランを策定し、周産期・救急医療など東胆振・日高圏域に必要な医療提供体制を堅持してまいります。

高齢者福祉の推進につきましては、「苫小牧市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」に基づき、介護サービス提供基盤の整備を進めるとともに、苫小牧版地域包括ケアシステムの深化に向けた取り組みを継続してまいります。特に、とまこまい医療介護連携センターを活用し、多職種連携の強化を目的とした研修や、地域の連携が円滑に進むための相談支援などに取り組み、切れ目のないサービス提供体制を構築してまいります。

また、現在実施している介護人材就業支援事業を継続し、介護職場への就業促進や定着を図るとともに、外国人の受入れに向けた取り組みを進めるなど、人材の確保に努めてまいります。

障がい者福祉の推進につきましては、あいサポート運動や手話の普及啓発を通じて、障がい特性への理解促進に努めてまいります。

また、医療的ケア児の在宅生活支援の取り組みを継続するとともに、障害者雇用奨励金事業などを通じて、障がいのある方への就労支援に取り組んでまいります。

夏には、“いけまぜ夏フェス”の開催が予定されています。障がいのある児童や、その家族の交流の場であることから、当該イベントへの協力を通じて、障がいの有無にかかわらず、互いに支え合い、誰もが暮らしやすい地域社会の実現を目指してまいります。

(2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち

農業の振興につきましては、新たに畜産担い手育成総合整備事業を実施し、草地の基盤整備を通じた、酪農畜産の経営安定とさらなる発展につなげてまいります。

水産業の振興につきましては、近年のサケの不漁や、北海道沿岸で発生した赤潮による漁業被害などを踏まえ、水産資源の安定確保を支援するとともに、様々な魚種の周知などを通じて、漁業者の生産基盤の強化を図ってまいります。

林業の振興につきましては、森林の適正な管理に向け、森林環境譲与税を活用し、民間の森林所有者への経営管理意向調査を実施するなど、

森林経営の健全化を図るとともに、二酸化炭素の吸収をはじめとした森林が持つ多面的機能を発揮させてまいります。

工業の振興につきましては、テクノセンターに導入したフーリエ変換赤外分光光度計^{※5}の活用などにより、企業における製品の品質向上や高機能化、生産技術の高度化を支援してまいります。

また、苫小牧工業高等専門学校や苫小牧商工会議所と協働で運営する技術相談窓口C-base（シーベース）、（公財）道央産業振興財団、市内金融機関などとの産学官金連携や各種事業の実施により、新規事業の創出や企業が抱える課題の解決に向けた支援に取り組んでまいります。

商業の振興につきましては、プレミアム付商品券事業により、消費の回復と拡大を図り、コロナ禍の長期化で影響を受けている飲食店や地元店を支援してまいります。

また、創業促進・商業にぎわい事業により新規創業者や商店街、空き店舗活用への支援を継続するとともに、とまチョップポイント事業のアプリ化を進め、新たな付加価値を市民や事業者を提供し、地域経済及び商店街の活性化に努めてまいります。

さらに、「苫小牧市中小企業振興計画」の3つの柱である“創業促進及び経営基盤の強化”、“人材確保・育成及び事業承継の円滑化”、“販路拡大及び需要開拓の促進”に取り組むほか、次期計画の策定を進めてまいります。

※5 樹脂、油などの有機系材料を短時間で特定できる分析装置

観光の振興につきましては、宿泊割引・宿泊者向け商品券配布事業により、宿泊需要の喚起や地元店などでの消費活動の促進に取り組むとともに、アフターコロナを見据え、観光情報誌などの様々な媒体を活用した情報発信を強化し、さらなる観光誘客に取り組んでまいります。

また、アニメーション作品などを活用したアニメツーリズム事業を継続し、まちの知名度・地域ブランド力の向上に努めてまいります。

新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進につきましては、新千歳空港を基軸とした広域的な観光振興や空港の利用促進につながる取り組みを行い、アフターコロナに向けた航空需要の回復と地域活性化に努めてまいります。

また、24時間運用拡大に伴う住宅防音対策や地域振興対策に、スピード感をもって着実に取り組んでまいります。

さらに、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に向けては、市民の安全・安心な生活を確保するとともに、再編関連訓練移転等交付金を活用し、航路下地域の環境整備や市民生活の利便性向上を図ってまいります。

本市の成長戦略の一つである臨空ゾーンにおける国際リゾート構想は、人口減少時代において、雇用の創出や地域経済の活性化に大きく寄与するものとしてチャレンジしており、引き続き統合型リゾート（IR）を含めた国際リゾート構想の実現に向け取り組んでまいります。

苫東開発の推進につきましては、国の「苫小牧東部開発新計画の進め方について（第3期）」に基づき、地理的優位性や広大かつ自然環境に恵まれた空間をいかして、物流、エネルギー、情報など、新たな成長産業やプロジェクトの誘致に取り組んでまいります。

また、苫小牧東部地域におけるCCUS大規模実証試験に関連する企業やデータセンターのほか、再生可能エネルギーの有効活用に資する産業など、民間プロジェクトの導入や企業立地の促進につなげてまいります。

(3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

教育行政につきましては、「苫小牧市教育大綱」の基本方針に基づく「教育行政執行方針」により、誰もが将来にわたり、それぞれの個性や環境にあわせた最適な学びを続けられるよう各種施策に取り組んでまいります。

昨年4月に校名を変更した北洋大学には、本市職員の配置を継続し、緊密な情報共有体制を維持するとともに、安定的な運営に向けた学生確保の支援や、卒業生の市内企業への就職促進に取り組んでまいります。

(仮称)苫小牧市民ホールの整備においては、PFI法^{※6}に基づき、設計・建設及び運営を一体として行う事業者と事業契約を締結し、“親近感と愛着を持てる憩いのプラザ、苫小牧市民のサードプレイス”の実

※6 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律のこと

現に向けて、設計業務に着手してまいります。

国際交流の推進につきましては、関係機関と連携しながら、在住外国人への生活相談や日本語学習支援などのサポートを充実させ、まちの国際化を進めてまいります。

また、国内交流の推進につきましては、はちとまネットワーク事業に基づく八戸市との連携のほか、姉妹都市である八王子市や締結40周年を迎える日光市との交流を進め、相互の発展につなげてまいります。

(4) 自然と環境にやさしいまち

自然環境の保全につきましては、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターにおいて実施している自然観察会などの啓発事業を通じ、自然との共生や生物多様性の大切さについて市民理解を深めてまいります。

また、近年、市街地においてエゾシカの出没が増加傾向にあることから、捕獲などの対策を試行実施してまいります。

公害の防止につきましては、大気汚染や航空機騒音の常時監視を継続するとともに、関係法令や公害防止協定に基づく取り組みを進めてまいります。

地球環境の保全につきましては、「苫小牧市第3次環境基本計画」の大幅な見直しを行い、ゼロカーボンに向けた道筋を示すとともに、「第3期苫小牧市役所エコオフィスプラン」を改訂し、公共施設の再生可能

エネルギー導入を計画的に進めてまいります。また、ゼロカーボンハウス促進補助事業などの施策を実施するとともに、省エネ行動に向けた啓発活動を強化し、市民の意識醸成を図ってまいります。

生活衛生の充実につきましては、高丘霊葬場の定期的な整備を継続し、安定運用を図るとともに、待合ロビーの改修により市民の利便性向上を図ってまいります。また、需要のさらなる増加を見据え、火葬炉の増炉に向けた作業を進めてまいります。

ごみの減量とリサイクルの推進につきましては、市民の皆様にごみの減量と適正排出に協力いただくほか、地域住民と連携したリサイクルの取り組みや環境美化活動を実施するなど、ゼロごみのまちの実現に向けた取り組みを進めてまいります。また、廃棄物処理施設の適正な維持管理を行い、安定した家庭ごみ収集運搬・処理を継続してまいります。

(5) 安全・安心で快適に暮らすまち

居住環境の充実につきましては、市営住宅の建替えにより、管理戸数の適正化を進めるとともに、既存住宅の長寿命化や日新団地の熱源改修などに取り組んでまいります。

また、「苫小牧市空家等対策計画」に基づき、各施策を継続するとともに、関係団体との連携を深め、北海道空き家情報バンクなどを活用し

た情報発信の強化を図ってまいります。

さらに、公園施設の改築・更新と適正な維持管理を行い、誰もが安全・安心で快適に利用できる公園・緑地を整備するとともに、6月に開催される全国都市緑化北海道フェアの協賛会場として、本市の豊かな緑と自然の魅力を発信してまいります。

上下水道の整備・健全な維持管理につきましては、「苫小牧市水道事業・下水道事業経営戦略」に基づき、健全経営に努めながら計画的かつ効率的に施設の老朽化対策や耐震化を進めるとともに、自然災害への備えとして雨水管や緊急貯水槽の整備を行い、“安全でおいしい水・快適で衛生的な下水道”を確保してまいります。

また、とまチョップ水は、モンドセレクション最高金賞に挑戦し、“おいしい水のまち苫小牧”のさらなるPRを進めてまいります。

道路の整備につきましては、未舗装道路の整備に取り組むとともに、老朽化した道路の改修や橋りょうの長寿命化対策を進め、安全・安心な交通環境整備に努めてまいります。

また、道路施設のネーミングライツは、新たな財源確保や企業のPRにつながることから、引き続き導入に向けた取り組みを進めてまいります。

公共交通の充実につきましては、「苫小牧市地域公共交通計画」に基づき、市民の足の確保に向けて各種事業に取り組むとともに、市内バス

路線再編案の策定を進め、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指してまいります。

また、JR室蘭線・日高線（苫小牧―鵠川間）の維持存続に向けて、北海道や沿線自治体などと十分な協議をしながら、地域としての協力・支援を継続してまいります。

消防・救急体制の充実につきましては、大型水槽車を導入し、水利不便地域での消火能力を向上させるとともに、老朽化した救急車両を更新し、強固な消防体制を構築してまいります。

交通安全の推進につきましては、子どもや高齢者を中心に交通安全教室を実施し、交通安全意識の醸成を図ってまいります。また、通学路の安全対策に取り組むとともに、関係機関に対して信号機設置の要望を行うなど、交通事故防止に努めてまいります。

防犯対策の推進につきましては、日常活動をしながら子どもや女性、高齢者などの安全を守る“ながら見守りタイ！”を含めた地域における防犯の担い手拡大に努めてまいります。

また、「苫小牧市防犯カメラ設置5カ年実施計画」に基づく取り組みを継続し、市民の安全・安心が確保される環境づくりに努めてまいります。

消費生活の安定につきましては、「苫小牧市消費者教育推進計画」に基づき、次の世代への消費者教育の機会の充実に取り組むとともに、消

費者意識の向上を図ってまいります。

また、公設地方卸売市場においては、指定管理者制度を導入した水産物部と青果部の効率的な管理運営を図り、安全・安心な生鮮食料品等の安定供給に努めるとともに、花き部の民間移譲を進めてまいります。

6 むすび

私達が住むここ苫小牧は、先人が厳しい自然の中で砂浜に港を開き、たゆまぬ努力と挑戦を続けてきたことで、多様な産業が集積する都市として発展してまいりました。

昨今の新型コロナウイルス感染症や地球環境の問題は、人々の生活や価値観に大きな影響を与えるだけでなく、社会に大きな変革をもたらしています。

このような時代の転換期において、地方都市に求められることは、時代の潮流を見極めた独自の取り組みであり、この次なる一歩こそが未来を拓き、持続可能なまちとしての発展につながるものと確信しています。

私は、次の世代を担う若い市民が幸せに暮らしていけるよう、20年先を見据えたまちづくりにまい進する決意を持って令和4年度の市政運営を進めてまいります。